

環境経営レポート

活動期間 : 2022年4月1日～2023年3月31日
(令和4年度)

次の世代が笑顔で暮らせる
環境を残すために。

限りある資源は、私達みんなの「宝物」です。

▶REPLAY

2022 年度版

2023 年 6 月 30 日

株式会社 広島リサイクルセンター

環境経営方針

守ろう、地域の生活環境！ 築こう、真に豊かな循環社会

全国清掃事業連合会メインスローガン

【経営理念】

次の世代が笑顔で暮らせる
環境を残すために

限りある資源は、私たち皆の「宝物」です

【基本方針】

我が社では、創業以来、廃プラスチックのマテリアルリサイクルを積極的に展開し、循環型社会の構築に社員一同、日々努力していることを踏まえ、以下の方針で、環境マネジメントに取り組んでゆくことを宣言します。

1. 事業活動にかかわる環境影響を常に認識し、環境経営システムを構築して、継続的な環境経営の改善を図ります。
2. 環境に関する法規制(条例含む)及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. エコアクション 21 活動として、次の事項を積極的に推進します。
 - (1) 電力、LPG、軽油、ガソリン等エネルギーの使用量を削減し、地球温暖化ガス排出量の削減に努めます。
 - (2) 廃棄物の再資源化を向上させ、資源の有効利用を図ると共に、再商品化技術開発に努めます。
 - (3) 水及び化学物質の使用量削減、水処理設備の管理強化により、水環境向上に努めます。
 - (4) 自然エネルギーの活用、マテリアルリサイクルに必要な人材の育成、技術の向上を図ると共に、環境配慮に努めます。
4. 工場見学者への対応等を通じて、地域との融和を積極的に進めます。
5. 環境経営レポートの公開等、必要な情報の開示に努めます。

2021年 4月 1日

株式会社 広島リサイクルセンター

代表取締役社長 三井 崇裕

1. 認証・登録対象組織（事業所・工場等）

1.1 対象組織概要

①フリガナ： カブシキカイシャ ヒロシマリサイクルセンター

②事業者名： 株式会社 広島リサイクルセンター

③所在地

本社： 広島市中区大手町三丁目1番3号

久井工場

久井第一工場： 広島県三原市久井町下津 1126 番 9

(プラスチック工場) (前処理選別工場)

久井第二工場： 広島県三原市久井町下津 1126 番 41

(プラスチック工場)

久井太陽光発電所： 広島県三原市久井町下津 1126 番 8

④環境管理責任者

氏名： 石黒 桂二

所属・役職： 製造部 工場長

⑤連絡担当者

氏名： 川本 義人

所属・役職： 生産管理 担当部長

E-mail： kawamoto@h-recyclecenter.co.jp

連絡先住所： 広島県三原市久井町下津 1126 番 9

TEL： 0847-32-5225

FAX： 0847-32-5226

1.2 沿革

平成 13 年 4 月	広島県清掃事業協同組合(県内一般廃棄物収集運搬業者で構成)として、ペットボトル・ガラスびんのリサイクル事業創業
平成 14 年 4 月	容器包装リサイクル法に基づき、その他プラスチック第 1 工場創業開始
平成 15 年 4 月	プラスチック第 1 工場生産ライン増設
平成 15 年 10 月	株式会社 広島リサイクルセンター設立、事業継承
平成 16 年 9 月	プラスチック第 2 工場竣工
平成 19 年 5 月	エコアクション 21 認証取得
平成 22 年 8 月	本社、久井工場 ISO9001-2008 認証取得
平成 25 年 6 月	太陽光発電事業開始(278kW)
平成 26 年 8 月	ガラスびん工場廃止
平成 27 年 2 月	ペットボトル工場廃止
平成 27 年 5 月	太陽光発電増設(1000 kW 増設)
平成 28 年 3 月	プラスチック前処理選別工場増設
平成 29 年 6 月	本社、久井工場 ISO9001-2015 認証取得
平成 30 年 8 月	本社、久井工場 JISQ9091-2016 認証取得

2. 情報公開項目

2.1 組織の概要

商号	株式会社 広島リサイクルセンター
本社	広島市中区大手町三丁目 1 番 3 号 TEL : 082-543-2772 FAX : 082-543-2773
工場	広島県三原市久井町下津 1126 番 9 (久井工業団地内) TEL : 0847-32-5225 FAX : 0847-32-5226
代表者	代表取締役社長 三井 崇裕
創業	平成 15 年 10 月 22 日 (広島県清掃事業協同組合より事業継承)
資本金	10,000 万円
事業内容	プラスチック製容器包装の再商品化事業、太陽光発電事業
売上高	2,247 百万円 (2022 年度)
処理量	プラスチック : 31,151t (2022 年度) 社員 1 人当たり : 308t/人(前年 101 人ベース)
社員数	97 名 (2023 年 4 月 1 日現在)

※ 処理量は実処理量を示し、入荷量は 31,268t(自社収集運搬量 : 9,223 t + 外注 : 22,045 t)

2.2 廃棄物処理許可

許可の種類	許可番号	許可年月日	備考
一般廃棄物処理施設	(三原市 第 204A08 号)	平成 13 年 11 月 15 日	既設 1 ライン(プラスチック第 1 工場)
	(三原市 第 204A09 号)	平成 15 年 2 月 28 日	A ライン (プラスチック第 1 工場)
	(三原市 第 204A10 号)	平成 15 年 2 月 28 日	B ライン (プラスチック第 1 工場)
	(三原市 第 204A11 号)	平成 16 年 7 月 16 日	A ライン (プラスチック第 2 工場)
	(三原市 第 204A12 号)	平成 16 年 7 月 16 日	B ライン (プラスチック第 2 工場)
	(三原市 第 204A13 号)	平成 16 年 7 月 16 日	C ライン (プラスチック第 2 工場)
	(三原市 第 204A01 号)	平成 27 年 12 月 1 日	前処理選別(第 1 工場)
	(三原市 第 204A02 号)	平成 28 年 6 月 20 日	発泡 PS 減容機(第 1 工場)
産業廃棄物処理施設	(広島県 第 A07043 号)	平成 16 年 7 月 16 日	既設 1 ライン(プラスチック第 1 工場)
	(広島県 第 A07044 号)	平成 16 年 7 月 16 日	A ライン (プラスチック第 1 工場)
	(広島県 第 A07045 号)	平成 16 年 7 月 16 日	B ライン (プラスチック第 1 工場)
	(広島県 第 A07046 号)	平成 16 年 7 月 16 日	A ライン (プラスチック第 2 工場)
	(広島県 第 A07047 号)	平成 16 年 7 月 16 日	B ライン (プラスチック第 2 工場)
	(広島県 第 A07048 号)	平成 16 年 7 月 16 日	C ライン (プラスチック第 2 工場)
産業廃棄物処分業 (破碎: 廃プラスチック類 溶融: 廃プラスチック類)	第 3426116429 号	令和 2 年 1 月 27 日	有効期限 : 令和 7 年 1 月 26 日

2.3 施設の概要

項目	処理能力	備考
処理施設の種類	リサイクル処理（中間処理）	
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック	
工場敷地面積	53,364 m ²	
工場等建屋床面積	17,738 m ² プラスチック第1工場：6,958 m ² プラスチック第2工場：7,257 m ² 前処理選別工場：988 m ² 工場事務所：400 m ² その他：2,135 m ²	本社事務所：120 m ²
再生処理施設の能力	その他プラスチック：年間 57,096t (31.2t/日×6ライン(24時間))	
保有車両	ウイング車 13t 8台 フォークリフト 20台 ロールオンダンプ 5t 1台 ショベルローダー 1台 ウイング車 4t 1台 高所作業車 1台 3tユニック車 1台 軽トラック 1台 トーイングトラクタ 2台	営業車 3台

2.4 その他

(1) 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会再生処理事業者登録済み

(2) 第1種エネルギー管理指定工場

(3) 当社のユーティリティーについて

①電気

1) 商用電力(中国電力)：契約電力 3,450kW 特別高圧 20,000V 回線

2) 太陽光発電(売電のみ)：278kW(発電出力)+1,000kW

②用水

工場内の洗浄用水等：工業用水(洗浄用水は20～50%再利用し、使用)

事務所の手洗い等：上水

③燃料

：ボイラ:LPGを使用(H27年6月以降A重油からLPGに燃料転換)

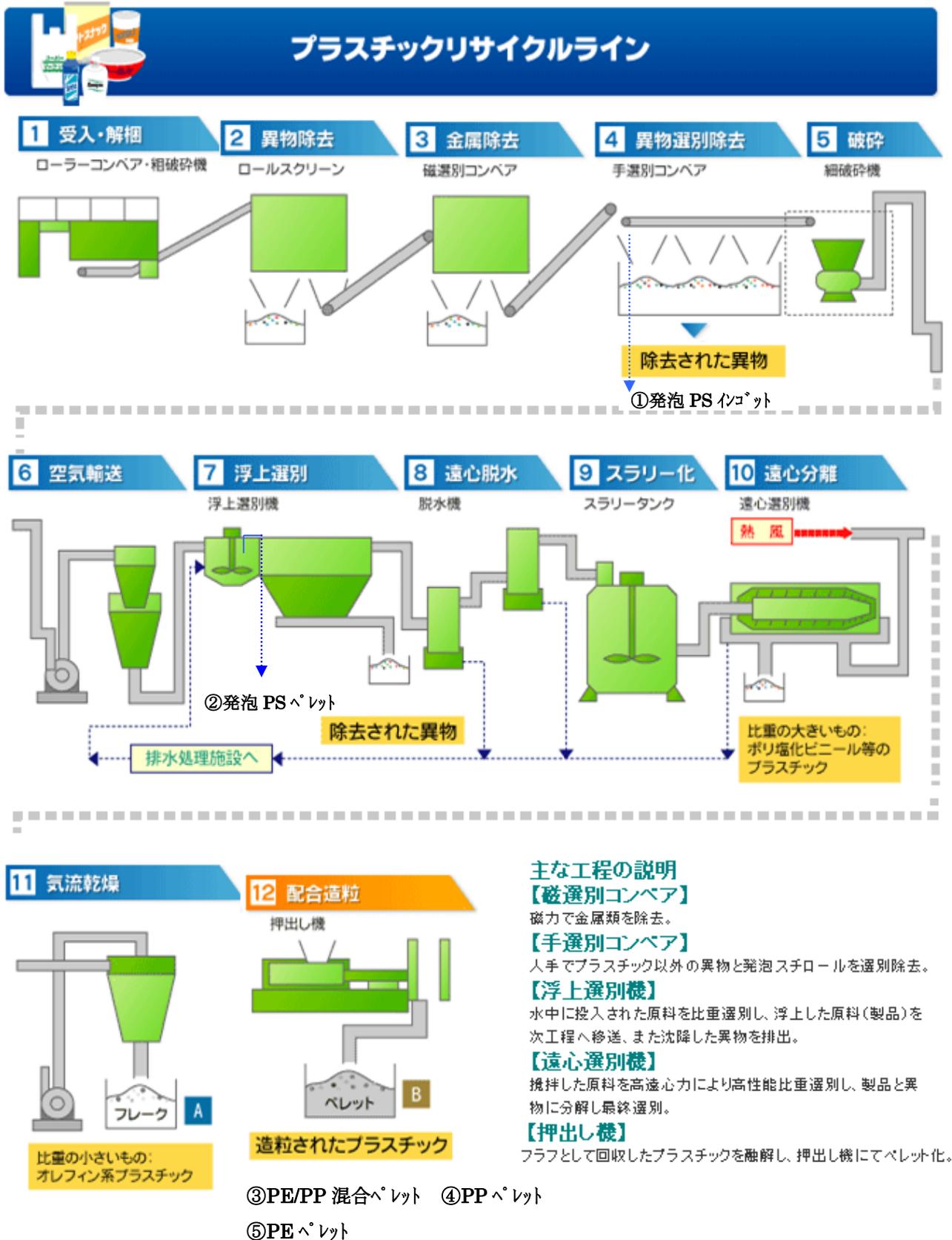
フォークリフト 軽油を使用(一部バッテリー車)

2.5 処理方式及び工程

(1)前処理選別工程

前処理工程として光学選別機による単一素材(PE,PP,PS等)の選別工程を経由し、次の高度処理(従来の遠心分離)のラインに投入、処理、各種製品を製造。

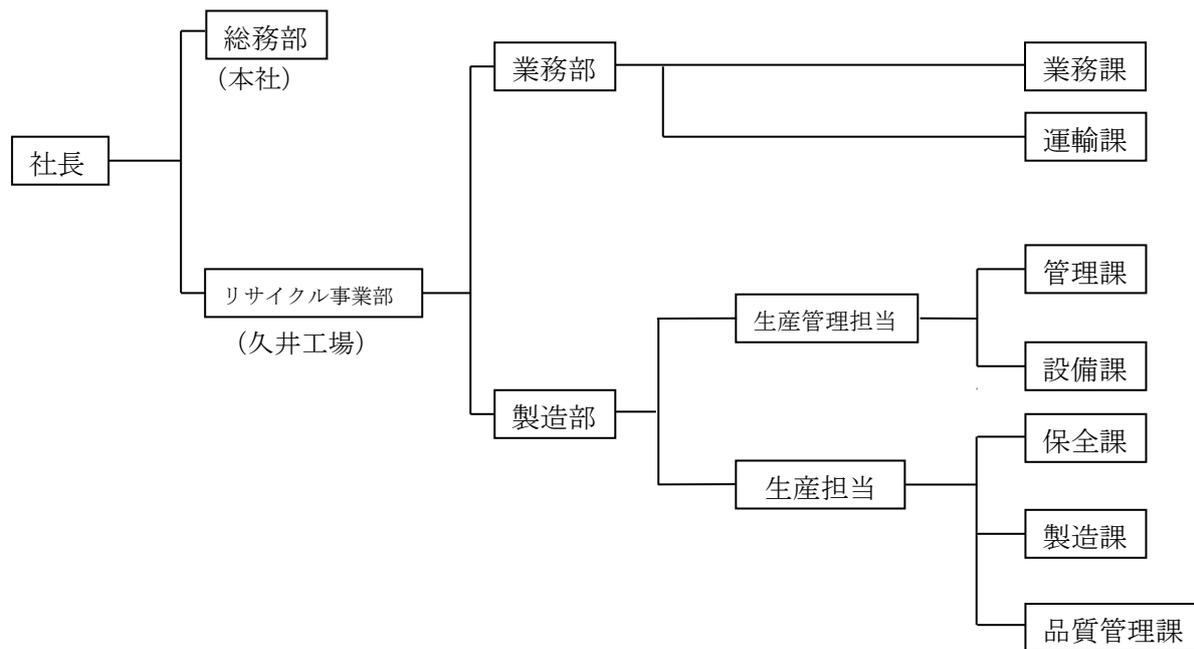
(2)高度処理(遠心分離方式)による処理方式及び工程図



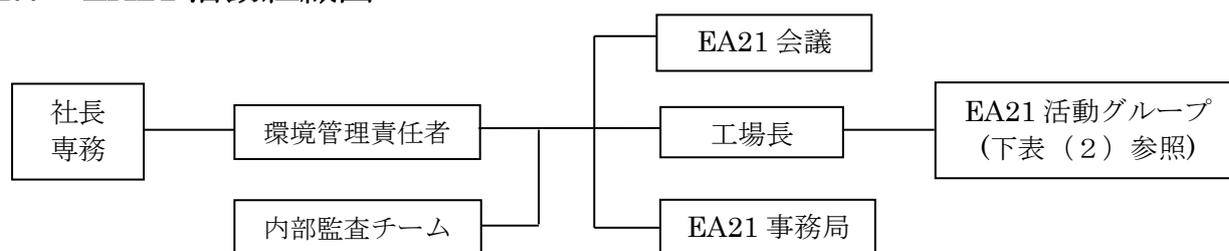
出荷製品

- ① 発泡 PS インゴット ② 発泡 PS ペレット ③PE/PP 混合ペレット④PP ペレット⑤PE ペレット

2.6 全社業務組織図



2.7 EA21 活動組織図



(1) 活動組織

項目	就任者	主な職務・権限
経営層	社長、専務	社長：課題とチャンスの明確化及び環境経営方針の策定 専務：実施体制の構築及び見直し。環境経営方針、環境経営目標及び実施体制の改善指示。
環境管理責任者	石黒工場長	EA21 システム構築の運用統括責任者、運用状況を経営者に報告
工場長	石黒工場長	工場の運営に関する事項（生産、品質、納期、コスト、安全等）の統括責任者
EA21 事務局	チーフ 川本生産管理担当部長	管理責任者の指示で、構築、運用に関する事務

(2) EA21 活動グループ

グループ名	グループ長	グループ構成	業務内容
1. 業務グループ	業務係長	業務課、総務部(本社)	本社活動との連絡・調整 労務、庶務、総務
2. 運輸グループ	品質管理課長	運輸課	原料、製品、廃棄物の 運送
3. 品質管理グループ	品質管理課長	品質管理課	品質管理、測定、評価
4. 管理・設備グループ	生産管理担当部長	管理課、設備課	生産管理、納期管理、工場 保全、設備管理、資材管理、 保全計画、省エネ
5. 製造グループ	保全課長	製造課(2交替)、保全課	受入、投入、製造、出来 高、廃棄物管理、設備、 建家、搬送車両の維持管理 等

(3) EA21 会議

主催者	会議メンバー	開催頻度	審議内容
環境管理責任者	【メンバー】 ・活動グループ長	1回/3ヶ月	環境経営に関する審議 EA21 システムに関する事項

(4) 内部監査チーム

主催者	会議メンバー	開催頻度	審議内容
環境管理責任者	経営者 活動グループ長 EA21 事務局	1回/年	EA21 システム運用状況 環境目標達成状況

3. 処理量・再資源化量・産業廃棄物排出量

3.1 処理量

単位：t

再生資源の種類	処理方法	2020年 度	2021年 度	2022 年度
容リプラ等	破砕	28,320	26,773	31,151
処理量合計		28,320	26,773	31,151

3.2 再生資源の再資源化量

単位：t

再生資源の種類	処理方法	2020年 度	2021年 度	2022年 度
容リプラ等	ペレット・インゴット等	13,926	13,253	15,405
再資源化量合計		13,926	13,253	15,405

3.3 委託した産業廃棄物の排出量

単位：t

廃棄物の種類	処理方法	2020年 度	2021年 度	2022年 度
廃プラ	焼却(ガス化溶融)・破砕(委託)	14,564	13,622	16,124
汚泥	堆肥(100%リサイクル)(委託)	1,568	1,495	1,738
金属	圧縮(100%リサイクル)(委託)	3	1	11
特管廃棄物	焼却(委託)(単純焼却)			
産業廃棄物排出量合計		16,135	15,119	17,873

- * 水分を含んでいるため、処理量合計と再資源化量合計+産業廃棄物排出量合計は一致しない
- * 事業年度は、4月1日～3月31日である

4. 環境への負荷の現状

全社環境負荷調査結果

項目	単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度
1.処理量	t	28,320	26,773	31,151
2.温室効果ガス排出量	kg-CO ₂	12,025,525	8,993,197	10,041,564
	Kg. CO ₂ /t ★	425	336	322
3.水資源投入量	m ³	71,296	65,576	68,439
4.化学物質使用量 ☆	t	652.7	511.6	471.1
5.総排水量	m ³	58,235	56,096	56,777
6.廃棄物排出量◆	t	16,136	15,119	17,873
7.再資源化量◆ (商品化量)	t	13,962	13,253	15,405
8.太陽光発電量	kWh	1,909,694	1,779,915	1,827,857

★ 温室効果ガス排出量 kg・CO₂ は原単位(処理量当たり)を示します。

★ 温室効果ガス排出量の購入電力排出係数を変更した。

(2013 年度までは、0.674kg・CO₂/kWh → 2014 年度以降は、0.738kg・CO₂/kWh
2021 年度以降は、0.585kg・CO₂/kWh)

☆ 化学物質は水処理、ボイラー及びクーリングタワー等の処理薬品で、PRTR 法に該当する化学物質はありません。

5. 当社の活動内容

5.1 特定環境目標

実施項目	活動内容
<p>(1) エネルギー(二酸化炭素)の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 電力量低減 ② ボイラ用 LPG 使用量低減 ③ 車両用燃料(軽油、ガソリン)使用量の低減 ④ 全員参加による LPG 使用量の低減 (手洗い、給湯等) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 省エネ提案、実施及び全員参加による照明電力等の低減 ② ボイラの排熱損失の低減、蒸気使用量低減の検討 ③ 運転方法見直しによる燃費の低減、車両整備による燃費増加の防止 ④ キャンペーン活動等による使用量の低減
<p>(2) 歩留の向上(廃棄物の低減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現状技術・設備での歩留向上 ② 新技術、設備による歩留向上 	<ul style="list-style-type: none"> ① 手選物の精度向上、磁選別コンベヤこぼれ等の有効活用及び全員への意識改革によるこぼれ等の有効活用 ② これまで廃棄物であったものを製品化
<p>(3) 工場外への排水量の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 排水処理の放流水の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ① 必要水量見直し及び無駄水の排除、リサイクル水使用量アップによる低減

5.2 重点環境目標

実施項目	活動内容
<p>(1) 資源の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 工業用水(工水)使用量の低減 ② 排水処理薬品費(化学物質使用量)の低減 ③ 破碎機の刃の交換費用低減 ④ 金網使用量の低減(造粒機) ⑤ 設備の停止時間の低減 ⑥ 上水使用量の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ① 使用水量の見直し,水漏れ個所の早期発見、処置 ② 排水量の低減による薬品量の低減及び排水処理の流入の変化に合わせたこまめな管理の徹底 ③ ベール品質の向上による異物の混入防止及び手選別の強化による突発破損の撲滅 ④ ベール品質の向上による異物の混入防止及び金網交換基準の見直し ⑤ 予備品の見直し、設備故障の低減 ⑥ 全員参加の使用水量低減活動及び意識改革による無駄水の排除
<p>(2)社員のモラルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育、資格の取得 ② 技能教育によるレベルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 資格所有者充足率調査及び各種教育立案 ② ライン運転(トラブル処理)、ライン外周り作業の技能評価実施、教育計画作成

5.3 特定作業、緊急事態訓練について

当社施設における特定作業及び緊急事態を特定し、以下の項目とし日常作業及び定期的に訓練等を実施しています。

① 特定作業

- 1) 廃棄物管理 (廃棄物管理規定による)
- 2) 排水処理の薬品管理 (薬品管理規定による)
- 3) 排水処理の維持管理 (排水処理作業点検表による)
- 4) ボイラ運転管理 (有資格者によるボイラ保守点検チェックシートに基づき、保守、点検を行う)

② 緊急事態訓練

- 1) 廃プラ原料倉庫内火災 (原料倉庫内火災緊急事態対応手順書による)
- 2) 排水処理劇物流出 (排水処理劇物流出緊急事態対応手順書による)
- 3) 排水処理汚水流出 (排水処理汚水流出緊急事態対応手順書による)

5.4 環境コミュニケーション

① 内部コミュニケーション

内部コミュニケーションとしては次のことを実施しています。

- 1) 会議室、事務所、現場掲示板、休憩室等に環境方針の掲示及び全員に同カードを配布
- 2) 全体で EA21 会議を 1 回/3 月 実施し、現状の把握、今後の対策及びその他伝達事項をこの場で連絡
- 3) 特定環境目標及び重点環境目標の各種目標値、実績等が一目で判るようにグラフ化したものを現場に掲示し、活動内容及びその状態が判るようにしている。

② 外部コミュニケーション

当社では外部コミュニケーション受付簿にて外部からの環境に関する苦情や要望を受け付け、必要な対応を行い、その結果を記録するようにしています。

また、当社施設の視察、見学等の積極的な受け入れ及び出前出張等、この記録も同書類に記録しています。

6. 環境経営目標とその実績

6.1 全社環境目標

環境目標値を次の通り定めた。

項目	活動の基本方針	環境経営目標		
		2021 年度	2022 年度	2023 年度
CO2 排出量	毎年度目標値を設定	2020 年度 実績の 2% 低減*	2021 年度 実績の 2% 低減	2022 年度 実績の 2% 低減
歩留り(廃棄物削減)	50%以上の確保	50%以上	50%以上	50%以上
総排水量(放流水)	各年度実績を基準	2020 年度 実績値を維持	2021 年度 実績の 2% 低減	2022 年度 実績値を維持

6.2 環境目標の実績、評価及び次年度の取組内容

6.2.1 特定環境目標(2022年度)の実績

特定環境目標	項目		目標	実績	評価
		単位			
1. CO2 排出量の低減 (2022 年実績の△2%を目標) ※1 ※1： 購入電力のCO2 排出係数は、0.738を使用 2021 年度からその係数を 0.585 を使用する。	購入電力	kWh/t (処理量当たり)	499	493	○
	LPG (ボイラ)	kg/ t (処理量当たり)	7.7	6.8	○
	軽油 (トラック及びフォークリフト)	ℓ/ t (処理量当たり)	トラックは毎年行き先が変更となるため、燃費管理を実施 3.93m/ℓ	3.95km/ℓ	○
			フォークリフト	1.18	1.12
	LPG	m ³ / t (処理量当たり)	0.0082	0.0069	◎
	CO2 排出量	k g/t (処理量当たり)	329	322	○
2. 歩留の向上 (廃棄物の低減)	歩留 (プラスチックライン)	%	50	49.5	△
3. 排水量の低減	放流水	m ³ /t (処理量当たり)	2.02	1.79	◎

評価：◎目標大幅過達、○目標達成、△9割以上目標達成、×目標未達

6.2.2 特定環境目標の実績、評価及び今後の取組内容

(1) CO₂ 排出量の低減

① 電力使用量及びLPG(ボイラ)使用量低減

1) 実績及び評価

当社の場合、この電力及びLPG(ボイラ)使用量がCO₂発生の90%以上を占め、そのウエイトが非常に高くこれらが下げられれば大きな成果が期待できます。

そこで当社では1回/月 省エネ会議を実施し、前月の省エネ内容の紹介及び新省エネ項目の検討をしています。(代表的な実施内容を以下に示す。) また、省エネパトロールを1回/2月実施し、5件の指摘事項があり、不要照明及び無駄な電気使用の検討及び対策を実施しました。

なお、2月には省エネルギー月間に合わせ全員参加による省エネ提案を募り、全4件の提案がありました。

今年度は処理量が増え、前処理ラインの稼働をゼロとし、電力使用量を抑え目標値をクリア出来た。

- 工場内稼働見直しによる効率アップ
- ボイラ排ガスO₂の定期測定、ダンパ開度調整、適正燃焼管理による排熱損失の低減
- 空気漏れ箇所～5ヶ所を修理し、ロスの低減を図った。
- 今年度は処理量が増え、全てのエネルギー使用の効率が上がり、目標達成が出来た。

2) 今後の取組

2023年度の省エネ活動は前記対策内容の定着化に加え、

- 処理量が低下するため、極力設備停止を抑え、効率化に努める。
- 空気及び蒸気漏れ箇所の調査、把握及び修理
- 自家消費型太陽光発電の設置(計画中：104.95kW)
- その他新省エネ項目の検討等を考えています。

② 軽油使用量低減

1) トラックの燃費管理

毎年原料の引取先が変わる為、調査期間を設け、燃費の目標値を設定し、活動した。

活動内容は、個人別燃費調査及びアイドルリングストップ等の呼びかけをし、目標値をクリアすることができ。(目標値 3.93 に対し、実績 3.95km/l)

2) フォークリフトの軽油使用量低減

フォークリフトは空ふかし防止の呼びかけ及び日常点検の点検率の管理を徹底し、また処理量も多く、目標値をクリア出来た。

(目標値 1.180/t に対し、実績 1.120/t)

3) 今後の取組み

2023年度も同様、トラックの燃費管理の活動を継続及びフォークリフトも目標値を見直し、引続き活動を継続していく。

③ ガソリン使用量低減

営業車は台数も少なく、乗る頻度も少ないことから2018年度から管理を廃止した。

④ LPG 使用量低減

手洗場及び給湯器室にLPG使用量の実績及び目標値を掲示物として貼り、意識の向上を図り、目標値をクリア出来た。(目標値 0.0082 に対し、実績 0.0069 m³/t)

今後も引き続き使用量が減るよう活動していく。

(2) 歩留の向上

歩留の向上は当社にとって非常に重要な項目であり、2022年度は各市町村へ品質改善のための呼びかけを5回実施しました。

また、手選別強化のための手選別勉強会も実施し、原料のこぼれ分の再投入の徹底、設備の高稼働率に努めたが、目標値 50%に対し、49.5%とクリア出来なかった。

2023年度は手選別の強化はもちろん、細かな積み重ね及び稼働方法見直しにより、確実に歩留りを向上させていくよう活動していく。

(3) 排水量(放流)の低減

当社ではプラスチックの事業を2002年4月からスタートさせ、当初より用水として工水及びリサイクル水を使用し、その比率を約50%程度としていました。

しかしながら、高リサイクル水比率では種々の問題点が発生することが判り、近年ではその比率を20~50%に抑え、排水処理の状態に合わせ、調整、対応しています。

(2022年度のリサイクル水比率：28.0%)

2022年度は、目標値をクリア出来た。

2023年度は更に細かな部分を詰め、無駄水の排除に向け取り組み、引き続き活動をしていく。

6.2.3 重点環境目標(2022年度)の実績

重点環境目標	項目		目標	実績	評価
		単位			
1. 資源の低減	工業用水 (2021年実績の △2%低減を目標とする)	m ³ /t (処理量当たり)	2.36	2.17	○
	排水処理薬品 費(2021年実績 値を目標とする)	円/t (処理量当たり)	949	901	○
	破碎機刃の 交換費用 (2019年度の目 標値)	t/セット (刃1セット当たり の処理量)	428	426	△
	金網 (造粒機用メッシュ) (2021年実績値を 目標とする)	枚/t (処理量当たり)	13.3	11.9	◎
	上水 (2021年実績を 目標とする)	m ³ /人・月 %	0.84	0.81	○
2. 停止時間	設備の停止時 間	(h/t)	0.016	0.004	◎
2. 社員のモラルアップ	教育、資格の取 得	—	資格の取得	3件 資格取得	○

評価：◎目標大幅過達、○目標達成、△9割以上目標達成、×目標未達

6.2.4 重点環境目標の実績、評価及び今後の取組内容

(1) 資源の低減

○工場で使用する工業用水は特に夏場になると、冷却の関係で使用量が大幅に増えることが大きな要因となっている。2022年度は処理量(原単位)が多く、かつ節水を徹底し、目標値を達成した。

今後目標値の見直しを行い、引き続き活動をしていく。

○排水処理の薬品費については、2022年は処理量が多く、汚水の濃度が非常に高く、負荷が高かったが、薬品の効率を上げ、目標値をクリアすることが出来た。

2023年は薬品費の高騰及び処理量の低下と非常に厳しい状況であるが、2022年度実績値を維持することで活動をしていく。

○上水については節水の掲示をし、意識改革に努め、目標値をクリアすることが出来た。

(2) 社員のモラルアップ

当社では資格一覧表の見直しを定期的実施しています。2022年度は、最低限必要な新規資格を抜粋し、3件の資格を取得しました。今後は必要な資格を精査し、取得に向けた計画を立てていきたい。

(3) 2017年度より、設備の停止時間(h/t)の項目を追加し、2022.年度も継続し活動した。

今年度は高稼働率が確保出来、目標値を達成することが出来た。2023年度も引き続き活動を行い、稼働率の充実を図っていきたい。

6.3 特定作業、緊急事態訓練の取組内容

(1) 特定作業

当社では、前記4項目の特定作業に新しく従事する者に対し、教育を実施し、教育訓練記録に残し、特定従事者に任命し、作業に従事させるようにしています。

2022年については排水処理の薬品管理及び排水処理の維持管理を2名教育し、特定業務従事者リストに追加しました。

(2) 緊急事態訓練

当社では、以下3項目の緊急事態訓練を1回/年実施し、記録に残しています。

今後も万一に備え、慌てることのないよう訓練を実施していくことで考えています。

○ 廃プラ原料倉庫内火災の緊急事態訓練

2022年10月7日実施

○ 排水処理劇物流出の緊急事態訓練

2022年11月18日実施

○ 排水処理汚水流出の緊急事態訓練

2022年11月18日実施

6.4 環境コミュニケーション

当社では 2022 年度は以下の活動を実施しました。

- (1) 施設の視察、見学者等を積極的に受け入れていますが、2022 年度においてはコロナ禍の中、6 団体、128 人の見学者を受け入れました。

今後も引き続き、見学者の受け入れ、社内展示物の充実、出張講座、自治体行事などへの参加等を積極的に進めていき、また本レポートの公表をし、当社の環境活動を見える形にしていきたいと考えています。

- (2) 5 月 23 日、11 月 28 日には工業団地周辺の地域清掃を実施し、ポイ捨てゴミの回収、草刈り等を行いました。

2022 年 5 月 23 日 工業団地周辺の地域清掃状況



7. 社長によるマネジメントレビュー

2023年4月17日に、社長(専務)によるマネジメントレビューを実施しました。

これまでの種々の環境経営活動推進状況を取りまとめて審議した結果、環境経営方針、環境経営目標、環境経営活動計画、実施体制は、いずれも適切で有効と判断し、引き続き変更なく、環境経営活動を推進するよう要望した。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

2023年4月17日

専務取締役 三井 弘樹

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- 環境法規制等調査及び登録簿に基づき、自主的チェックを行い、環境関連法規の違反、また、関係当局よりの違反の指摘は、過去16年間ありません。
- 訴訟に関しても、過去16年間ありません。
- 当社が直接に関わる環境関連法規等は下記の通りです。
 - ・ 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律
 - ・ 消防法
 - ・ 毒物・劇物取締法
 - ・ 廃棄物処理法
 - ・ 自動車3法
 - ・ 省エネルギー法
 - ・ 電気事業法
 - ・ フロン排出抑制法
 - ・ 水質汚濁防止法
 - ・ 工場立地法
 - ・ 広島県生活環境の保全に関する条例

以上